

JICA2020年度課題別研修「地域開発計画管理」コースは初めてオンライン研修による受け入れを行いました。

北海道開発局では、北海道開発の経験や知識を活かした国際協力活動として、平成4年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携し、地域開発に携わる開発途上国の行政官を対象とした研修員の受け入れを行っています。

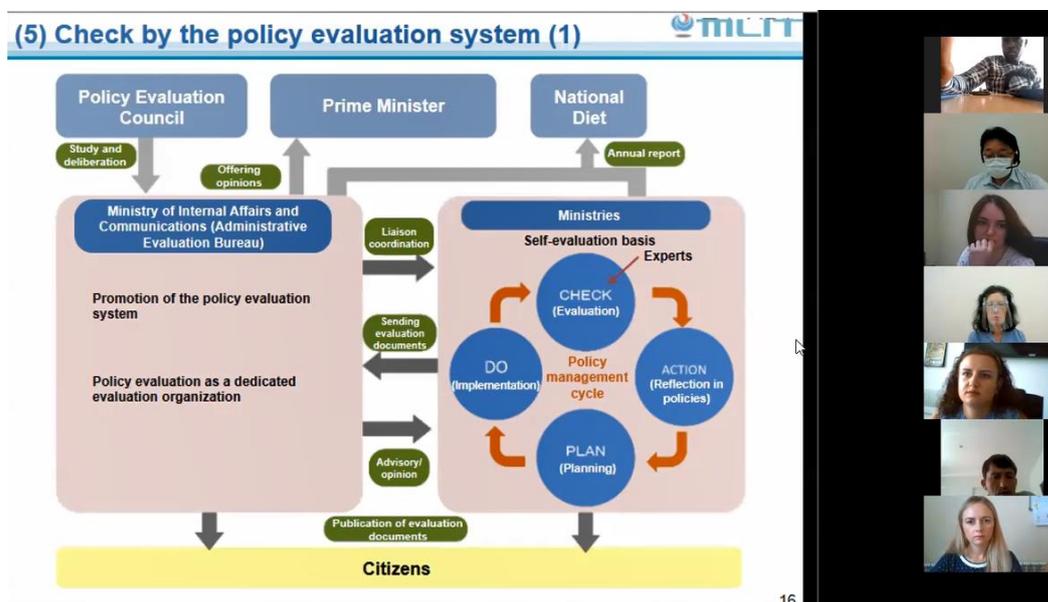
この度、受け入れを行った「地域開発計画管理」コースは、北海道総合開発の手法を参考に参加者が自国の地域開発の計画管理・運営等の技術を習得することを目的としています。

2020年度は、初めてオンライン研修による受け入れを行いましたので概要をお知らせします。

1. 研修期間：2021年（令和3年）2月19日～3月9日（第1フェーズ）
：2021年（令和3年）7月19日～8月5日（第2フェーズ）
2. 研修内容：件名 JICA2020年度課題別研修「地域開発計画管理」コース
：目的 北海道総合開発の手法を参考に参加者が自国の地域開発の計画管理・運営等の技術を習得すること
3. 参加者：日本側 受託機関 一般財団法人日本国際協力センター（JICE）
コースリーダー 東海大学国際文化学部長 平木 隆之 教授
：研修員側 ベトナム、シエラレオネ、北マケドニア、タジキスタン、ウクライナ 5カ国8名
4. 研修概要

（1）講義の様子

当局は毎年、北海道総合開発の体制や当局の実施事業、道の駅やシーニックバイウェイ等の現地視察を組み合わせた研修プログラムを提案し、研修に協力してきました。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、日程を繰り下げて研修員が来日することができなかったことから、オンラインによる講義を実施し、少しでも多くの成果を得られるよう協力しました。



渡部国際室長の講義の様子

2020年度は初めてのオンライン研修ということもあり、ノウハウのない中関係機関が協力・連携して対応にあたりました。これまでの訪日研修では、フィールドワークを重視し、実際に現地を訪れ、研修員に説明することができましたが、オンライン研修ではそれが難しく、研修内容も工夫し対応することとなりました。

また、研修員はオンラインで各国から研修に参加するため、時差の影響で研修時間が短くなったり、研修員が仕事と両立しながら研修を受けなければならなかったりと様々な制約がありました。

しかし、オンライン研修を活かして、過去に同じ研修を受講した研修員 OB の経験を話してもらう機会を設けたり、フェーズ2では、研修員からの要望を踏まえ、地域開発計画の点検・評価、基礎自治体における取組の事例紹介等、ニーズに応じた研修内容を追加することで、研修員も積極的に研修に参加していました。当局が行った地域開発計画の点検・評価の講義について、研修員から多くの質問があり関心の高さがうかがえました。

(2) 閉講式

無事に8月5日に閉講式を迎え、研修員全員が修了証書を受け取ることができました。訪日研修でフィールドワークに出るといえることはできませんでしたが、コロナ禍という特殊事情の中で、関係者が知恵を絞り可能な対応をしたことで、新たなノウハウの蓄積がされました。

本研修の成果が研修員の母国の発展に寄与するとともに、いつか実際に日本を訪れる機会があることを切に願っています。



修了証書授与の様子



最後に記念撮影